

## ◆障害学生の修学支援・II◆

## 第五回 広報

筑波技術大学教授 石田久之

今回は今までとちょっと趣を変えて、修学支援の広報について考えてみようと思います。広報といっても、相手は様々です。誰にどんな内容で行うかがポイントです。

## 障害学生に

障害学生には、大学が修学支援を行っているということのPRです。支援内容には様々なものがあります。また、じっと待っていてもサービスは始まらないわけで、その支援を受けるための手続が必要で、障害学生が、支援を受けたいという気持ちを感じに持ち込めばよいのか。

多くの大学では、これらの説明は学生便覧や学生手帳などに記載されています。また、それらとは別に、学生生活ガイドブックなどを作成し、配布している大学もあります。

大学便覧などを隔から隔まで読む学生はあまりいないと思いますが、在学中に障害者となり、その後の学習や生活をどうしようかと考えている障害学生には、重要なガイド

です。

新入生については、多くの場合、入学試験時の特別な配慮の依頼や、合格後の個別面談、また、入学書類と同時に提出される「学習における特別な配慮の申請書」などから、かなりの程度、大学として状況を把握できますが、オリエンテーションなどで、支援サービスについて解説し、周知の徹底を図ります。

支援制度のパンフレットは、通常、障害学生だけに送付されますが、ある大学では、すべての入学生に送付し、大学としてしっかりと障害学生の修学支援に取り組んでいることを全学生に示し、併せて、支援の協力や啓発活動の一環としても位置付けています。

## ホームページ

情報発信の手段として、今やホームページはなくてはならぬものになっていきます。勿論、学生便覧そのものをホームページに載せても構いませんが、ここはもう少し、見やすく利用しやすいものを作ったほうが良いでしょう。例えば、ノートテイクの実際をムービーでデモするとか、学内の危険箇所を写真や地図を入れて示す、などです。

ホームページはこの後に述べるような学生・受験生にも有効です。支援学生のスキルアップのための、eラーニ

ングなどにも使えるのではないのでしょうか。

とても便利な手段ですが、一つ注意が必要です。ホームページには様々な人々がアクセスします。その中には視覚障害者・学生もいます。視覚障害者はブラウザの画面を音声で読み取って理解します。その際、図や写真は音声化できませんが、それらイメージの代わりにテキスト文を表示できるようにしておけば、視覚障害者も利用できます。見ることができなくても、音声で十分分かるようなホームページにしたいと思っています。

## 周囲の学生に

障害学生の周囲の学生への広報とは、多くの場合、支援の輪に加わって欲しいという協力依頼が主です。今まで、何度も書いてきたように、支援スタッフは常に足りないからです。しかし同時に、支援という行為が支援者の成長につながるという内容も広報として重要だと思います。面と向かうとなんとなく面はゆい言葉ですが、様々な困難の中の支援学生の成長というお話は、多くの大学でお聞きすることです。

一方、積極的に支援に参加して欲しいということではなくても、例えば、雨の日の混んだエレベーターに車椅子利用者や乗込みましたら、降りて場所を空けるとか、食

堂で視覚障害者が席を探していたら、ちょっと声を掛けましょう、というような協力をうったえる掲示・チラシ・ポスターなどは必要です。これらがなくても心配りのできる学生は、どのくらいいるのでしょうか。残念な話ですが…

## 障害のある受験生に

障害のある受験生にも、大学が修学支援を行っていることの広報です。前述のホームページや募集要項での説明によって行われますが、近年盛んに開催されているオープンキャンパス・大学説明会での支援センター（室）の公開などを通して、積極的に広報を展開している大学もあります。実際の場合で実際の担当者に、受験相談や入学相談に近い形で説明を聞くことができるというのは、受験生にしてみればとても心強いものだと思います。

また、保護者にも支援内容は、大きな関心事です。特に「安全」ということに関して、どのような配慮がなされているのかは重大事です。昨今しばしばニュースとなる大学生の絡む悲しい事件が起こらないような対策が、寄宿舎やキャンパス内でのように講じられているのか。心の問題にはどんな対応があるのか、などなど、広報すべき点は、いくつもあります。